

授業科目	言語発達障害Ⅴ (援助法 - 各論)				
担当者	ネグロンちひろ・中山清司・岡崎満希子				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

言語コミュニケーション発達支援のための介入技法について学ぶ。工藤（第1回～第5回）は発達の遅れやアンバランスのある子どもや読み書きに難しさのある子どもの発達特性や障害メカニズム、スクリーニングや総合的なアセスメント、個別指導・支援・介入について講義する。門（第6回～第11回）は障害を持っている方々を支援するために必要な応用行動分析の知識の説明と現在使われているコミュニケーション支援の紹介をする。中山（第12回～第15回）はTEACCHを背景として、ASD児者のライフステージやコミュニケーション支援、地域生活支援などを講義する。

■ 到達目標

発達の観点からみた障害の知識、アセスメント、介入技法を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 発達支援の基本（岡崎）
- 第2回 言語発達支援1（岡崎）
- 第3回 言語発達支援2（岡崎）
- 第4回 発達特性に応じた支援1（岡崎）
- 第5回 発達特性に応じた支援2（岡崎）
- 第6回 応用行動分析の概念の復習（ネグロン）
- 第7回 応用行動分析の概念を使いながら教える方法（ネグロン）
- 第8回 応用行動分析の概念を使いながら教える方法（ネグロン）
- 第9回 応用行動分析の概念を使いながら教える方法（ネグロン）
- 第10回 PECSとは（ネグロン）
- 第11回 PECSとは（ネグロン）
- 第12回 自閉症・発達障害の特性理解に基づく支援の基本（中山）
- 第13回 自閉症・発達障害の人への地域生活支援に関する事例検討（中山）
- 第14回 自閉症のコミュニケーションプログラムの開発（中山）
- 第15回 自閉症のコミュニケーションプログラムに関する事例検討（中山）

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・言語発達障害学のテキストにある、障害別の指導法、応用行動分析、TEACCHの項目は一読しておくこと。
- ・指定教科書「自閉症支援のスタンダード Ver.2 ～余暇支援の展開～」、「教育へのピラミッドアプローチ 役に立つABA入門」を読んでおくこと（臨床実習等、実践のために大変役立つ書籍です）。
- ・1年次の言語発達障害Ⅱの資料も復習に役立つ。

■ 教科書

書名：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版

著者名：玉井ふみ・深浦順一 編

出版社：医学書院

書名：自閉症支援のスタンダード Ver.2 ～余暇支援の展開～

著者名：中山清司ほか

出版社：自閉症 e サービス

書名：教育へのピラミッドアプローチ 役に立つ ABA 入門

著者名：アンディ・ボンディ著 門 眞一郎監訳 ネグロンちひろ編

出版社：ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン

■ 参考図書

書名：絵カード交換式コミュニケーション・システム トレーニング・マニュアル 第2版

著者名：ロリ・フロスト(著), アンディ・ボンディ(著)

出版社：ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン

書名：認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の Stage 別発達課題 (自閉症治療の到達点2)

著者名：太田昌孝、永井洋子

出版社：日本文化科学社

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって